資料 2

## 持続可能な
## 地域コミュニティの形成にチャレンジ！

# 地域コミュニティビジョン実現に向けて

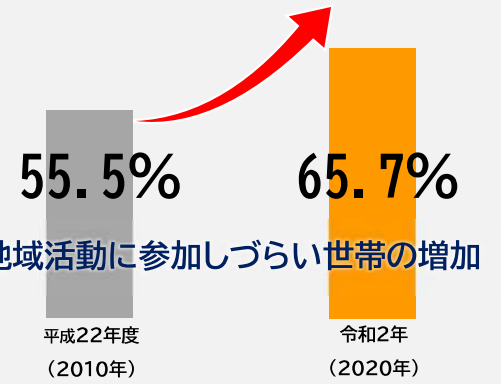
北九州市　地域振興課

Community Action!

# 北九州市の地域コミュニティが抱える課題

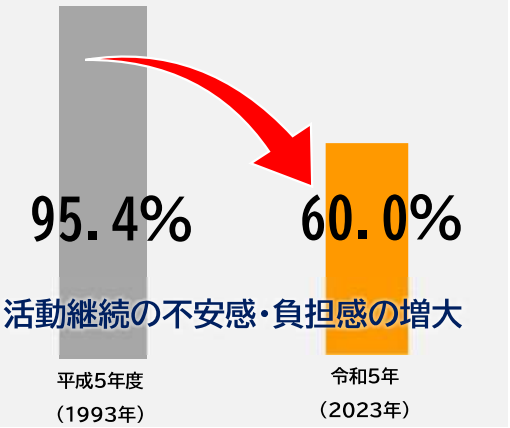
## 共働き世帯の増加

単身世帯割合（令和2年度）約４１％

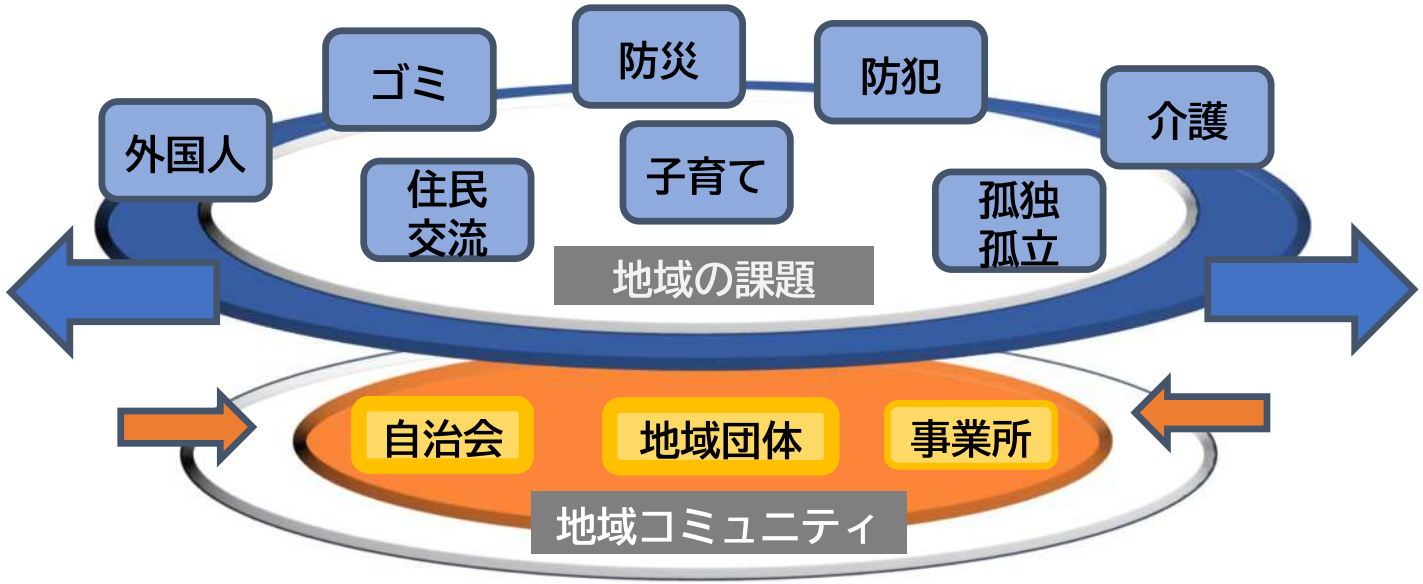



## 自治会加入率の低下

まち協会長の平均年齢（令和６年度）約７５歳




## “広がる”地域課題、“縮む”地域コミュニティ




### 2040年の社会情勢

超高齢社会の進行　テクノロジーの進化　人生100年時代の到来

**時代の変化にあった新しい地域コミュニティとは？**

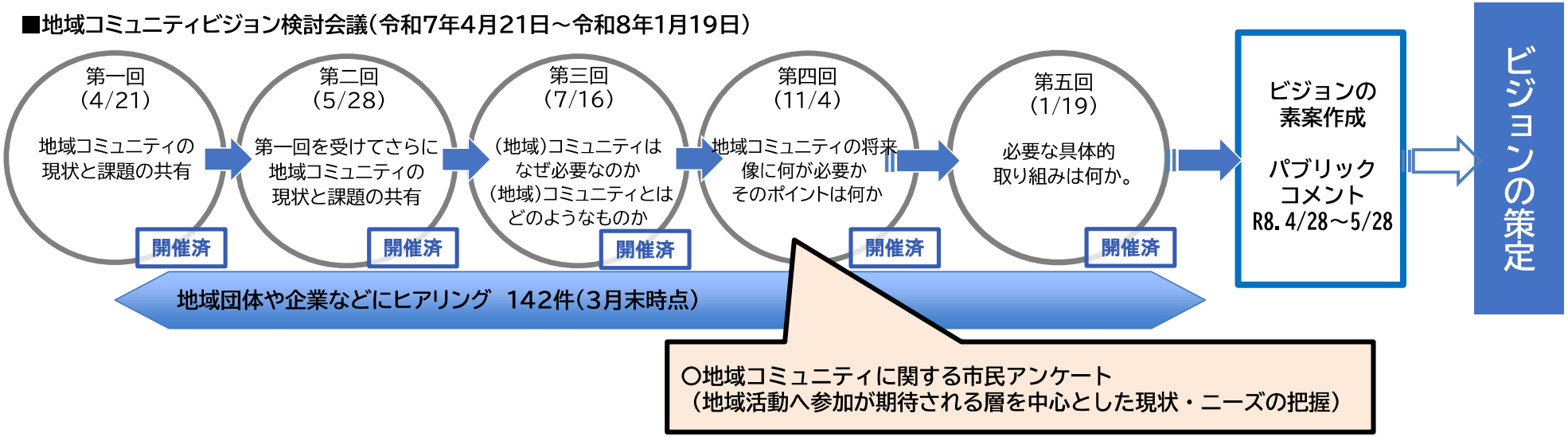
骨太の方針

# 北九州市地域コミュニティビジョン

## 未来像「多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ」

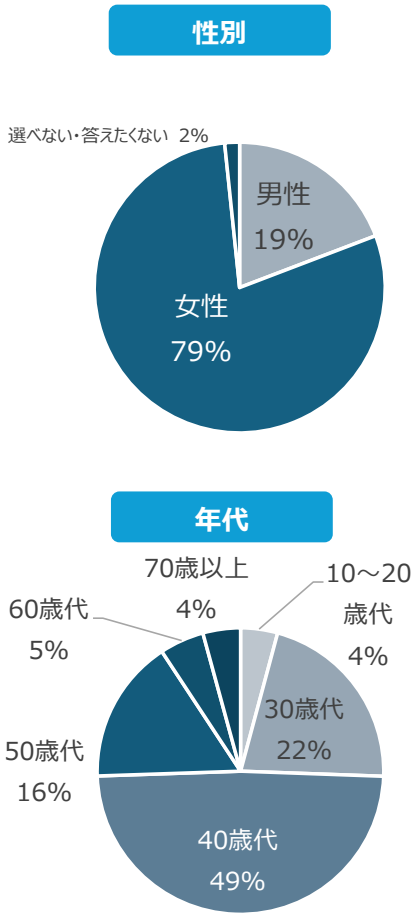
① 望ましい未来像を描き、そこから逆算して課題を解決
② ３つの大事な視点
「必要に応じて現状から変化」「関係者の垣根を越えて接続・連携」「好循環を生み出していく」
③ 市民性・気質を踏まえた議論を

■地域コミュニティビジョン検討会議（令和7年4月21日～令和8年1月19日）



## アンケートから見えた将来世代の声

回答数：５，９６４件




（次の担い手となりうる層）
**主に子育て世代の声**

○地域生活に困りごとがなく、組織への参加の動機づけが難しい層が存在。
（地域の困りごとは何か＝「特に困っていることはない」40%が最多）

○地域活動は、高齢者の参加が多い。（70歳以上62%）
属性別で二世代世帯（44%）、賃貸マンション（26%）は低い傾向。

○不参加の理由は、「時間・体力がない」が多い。（70. 2%）
特に子育て世代は他の世代より「時間・体力がない」の傾向が強い。

○目的・テーマによっては地域外からも参加する。
（地域外活動に参加12%「祭り・イベント」「清掃活動」「子育て活動」）

○地域の困りごとや今後必要な活動は「ごみ」「防犯」「防災」「子育て」など
人の生命・健康と関連するもので、地域活動で得たいものは、「安心・安全」
（地域活動で得たいもの＝「地域全体への安心感・愛着」45.7%が最多）

**地域の礎を大切に受け継ぎながら、誰もが参加しやすくしていくには？**

目指す将来像

# 共助が働きやすいまち
# （Mutual city）

人と想いが交わる、利他が息づく、持続可能な地域コミュニティ






# 地域コミュニティビジョンについて（基本的な考え方）

## ○地域の力が決定的に重要

働く人の暮らしを支えるのは、家庭であり、地域のつながり。また、日々の見守りや防犯、防災、環境美化など、生活の様々な面で市民の暮らしを支える都市の基盤が充実していることが市民の一人ひとりの人生をより安心で豊かなものとしていくために不可欠であることから、「地域の力」が決定的に重要。

## ○地域コミュニティの将来に必要な三つの視点

コミュニティの原点は、人と人とのつながりであり、その創造に一層注力していくための環境や仕組みづくりに向けて、地域コミュニティの将来には次の三つの視点が必要。
(1)「楽しさ」や「興味」から「やりがい」へとつながる参加の入口を広げ、誰もが参画しやすい環境を整えること
(2)地域活動に企業や大学、NPOなど多様な主体が関わり、地域課題の解決に向けた協働の輪を広げること
(3)地域団体の役割をスリム化し、負担を軽減しながら、地域活動に必要な資源が循環する仕組みを構築すること

## ○課題を価値に変えるフロントランナーへ

「公害の克服」や「まちの安全」など、市民や行政が一体となって課題に取り組んだ「住民自治の土台」「人情大都市」の歴史があり、日本全国が悩んでいる地域コミュニティの課題に対して解決モデルを提示できるポテンシャルがある。
北九州市が「課題を価値に変えるフロントランナー」となり、新たな地域コミュニティの在り方を発信。

# 北九州市地域コミュニティビジョン(案)について(概要)

地域コミュニティで受け継がれたこれまでの歩みを新たな時代へつなぎ、課題を価値に変えるフロントランナーへ

## 議論の過程

地域、大学、企業、NPO、Z世代などが参加する
**地域コミュニティビジョン検討会議**




## 北九州市の歴史と可能性

| 住民自治の歴史・人情大都市 | “日本の100分の1モデル” |
|---|---|



婦人会による研究発表会(林えいだい氏撮影)




## 目指す将来像

# 共助が働きやすいまち(Mutual city)

～人と想いが交わる、利他が息づく、持続可能な地域コミュニティ～
「誰かが担ってくれるもの」から、「みなでつくっていくもの」へ

## 大事な3つの視点

**より一層自律的、能動的な運営へ**
・つながりや安全・安心という役割を維持しながら、必要な活動を自主的に判断
・必要な資源を安定的に確保し、地域内で循環させる

**多様な主体との協働の促進**
・多様な主体が関わり、それぞれの強みを活かした協働を促進
・課題への対応力とコミュニティの魅力を向上

**「楽しさ」「興味」「やりがい」の重視**
・「楽しそう」「関わりたい」と思える参加の入口をつくる
・役に立つ実感を通じて継続参加とやりがいにつなげる

## 【実践の考え方】 具体的な取組の方向性(抜粋)

**○みんなの声を活かす**
「地域×“ブロードリスニング”」
多様な意見を収集し傾向等を見える化

地域のデータや現状などを“見える化”



**○多様な主体と協働する**
「地域×“企業・大学・NPO…”」
強みを活かした協働で課題解決

次の10年地域づくり先行モデルプロジェクト
現状分析から解決まで新たなモデルを模索



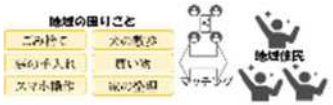
**○経験を地域の力としてつなぐ**
「地域×“経験”」
シニアの経験や知識を地域の力として、活動の価値を見える化

ケイケン・タカラプロジェクト
シニアの豊かな経験を次世代へとつなぐ「登録制度」の創設など



**○デジタルでつながる**
「地域×“デジタル”」
情報発信、助け合いや運営にデジタルを活用する

地域のチカラつなぐプロジェクト
デジタルを活用した助け合いの仕組みなど




**○つながりを生む場をつくる**
「地域　×“居場所”」
気軽に立ち寄れる交流の場づくり

まちの縁側・リビングプロジェクト
参加しやすい地域への「入口」として気軽に立ち寄れる居場所づくり



# 地域コミュニティ創成元年がスタート




地域コミュニティの
課題を価値に変える
フロントランナーへ